

2007年1月17日

～「アキバ3Dプロジェクト実行委員会」に協賛、1月19日～2月3日まで～

富士ソフト様秋葉原ビルが世界最大級3Dポスター実証実験の舞台に！

株式会社トイボックス(本社:大阪市北区 代表取締役 小林芳文)は、「アキバ3Dプロジェクト委員会」に協賛し、富士ソフト株式会社(本社:神奈川県横浜市、代表取締役会長兼社長:野澤宏、以下富士ソフト)が、2月5日に竣工予定の新社屋「富士ソフト秋葉原ビル」5階大ホール窓面を産官学連携による世界最大級3Dポスター「決!(KIME)」の実証実験に協賛いたします。

本ポスターは、縦6.96メートル×横17.24メートルと3D印刷としては世界最大級の大きさ。アナグリフと呼ばれる赤と青のセロファンで出来た3Dメガネを通して見ることで、画像が立体的に見えます。今まで見たことのない迫力の画像が今注目を集める秋葉原に出現します。

このプロジェクトは、大型3D印刷における立体感や効果的な使用方法について評価実験を行い、次世代のパブリックメディアとして3Dの可能性を検討することを目的にしています。

そして株式会社トイボックスは、世界最大3Dポスター産官学連携プロジェクトのクリエイティブ部門で協賛し3D撮影機材提供、カメラマン、俳優の手配をはじめ3Dポスターのデザインなどをプロデュースいたしました。



イメージ図:窓面に縦6.96m×横17.24mの3D巨大ポスター出現!

【展示概要】

- タイトル 「決!(KIME)」
- 展示期間 2007年1月19日(金)～2月3日(土)
- 展示場所 富士ソフト秋葉原ビル(2月5日竣工)5階大ホール窓面
- 住所 東京都千代田区神田練堀町3番地
(JR秋葉原駅中央改札口そば)
- 見学場所 秋葉原UDXの2階東側デッキにて専用ビューアを設置

※期間中は、秋葉原UDXの2階東側デッキの専用ビューア(アナグリフ双眼鏡)を設置。また、3Dメガネを秋葉原UDX内「AKIBA INFO」、「東京フードシアター5+1」、「アキバ3Dスタジオ」秋葉原駅前有料トイレ「オアシス@akiba」にて無料配布します。(限定4,000枚)



2007年1月17日

【3Dポスターについて】

日本の観光スポットとして注目を浴びている秋葉原に伝統芸能である歌舞伎を題材に日本らしさを表現。「美しい国、日本」2007年の幕開けに相応しい芸術性の高い作品に仕上げました。

本ポスターの撮影は、世界的なカメラマンである柏木崇氏、役者は、岩井流宗家である岩井梅我氏、鼓奏者には高名な西川啓光氏にご協力いただきました。また、大森学園高等学校の生徒達がボランティアで撮影に参加し、プロの撮影現場や3D写真の合成方法について体験しました。本ポスター制作に関わるプロデュースを株式会社トイボックスが行ないました。

【当プロジェクトについて】

- 主催 アキバ3Dプロジェクト実行委員会
- 共催 富士ソフト株式会社
- 運営 株式会社新産業文化創出研究所
- 協賛 **株式会社トイボックス**、凸版印刷株式会社、株式会社ピックスドゥ
ヤマギワ株式会社、早稲田大学河合隆史研究室、千代田区
- 協力 秋葉原UDX、学校法人大森学園大森学園高等学校

【アキバ3Dプロジェクト実行委員会について】

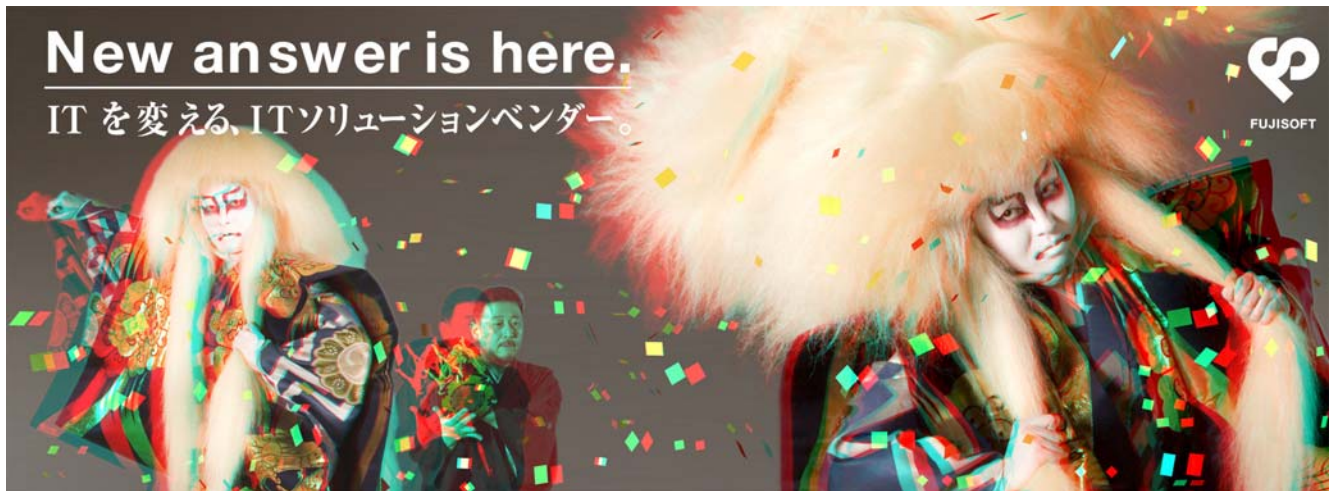
- 委員長 廣常啓一(株式会社新産業文化創出研究所)
- 副委員長 河合隆史(早稲田大学)、小松沢秀志(富士ソフト株式会社)、
- 委員 阿川弘己(株式会社トイボックス)、阿部信明(早稲田大学)、伊藤哲朗(富士ソフト株式会社)
太田啓路(新産業文化創出研究所)、柏木崇(カメラマン)、樺沢哲(凸版印刷株式会社)
新改博久(凸版印刷株式会社)、権藤博司(株式会社ピックスドゥ)、
高橋晃(株式会社トイボックス)、中嶋幹雄(株式会社トイボックス)、
二ノ宮広(株式会社ピックスドゥ)、

また、株式会社トイボックスでは、本プロジェクト運営の株式会社新産業文化創出研究所の協力を得て『1/1 Scale Stereo Screen』大久保麻梨子、山崎真実、等身大立体ポスターの展示販売を秋葉原UDXビルにて行ないます。

3Dポスター制作に関するお問い合わせ

■株式会社トイボックス
担当/阿川、中嶋
〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-5 山西屋・西孫ビル5F
Tel 06-6352-7744
e-mail: info@toy-box.tv
<http://www.toy-box.tv>

【添付資料】■ポスターイメージ



タイトル: 「決!(KIME)」

サイズ: 世界最大級 3D ポスター(横 17.24m×縦 6.96m)

■制作スタッフ

撮影: 柏木崇(カメラマン)
アシスタントカメラマン: 権藤博司(株式会社ピックスドゥ)
グラフィックスエンジニア: ニノ宮広(株式会社ピックスドゥ)
3D 監修: 河合隆史(早稲田大学)
3D クリエイター: 阿部信明(早稲田大学)
クリエイティブプロデューサー: 阿川弘己(株式会社トイボックス)
クリエイティブディレクター: 中嶋幹雄(株式会社トイボックス)
アートディレクター: 高橋晃(株式会社トイボックス)
撮影協力: 大森学園高校情報技術科 2年1組有志一同
青柳雅仁 安部祥太 加賀谷健太 中鉢真輝 寺尾慎太郎
永嶋雅人 松浦涼太 山尾匠貴 渡辺大輝
担任 百瀬浩一 校長 井上皓司
機材協力: 株式会社ピックスドゥ 株式会社トイボックス
日本舞踊家: 岩井梅我
鼓奏者: 西川啓光
衣装: 石川栄仁(松竹衣装)
かつら: 小山勝司
顔師: 新村昌克
総合プロデューサー: 太田啓路(株式会社新産業文化創出研究所)

2007年1月17日

■プロフィール

カメラマン: 柏木崇

音楽・写真・映像において自らが身を置いていた伝統芸能を礎とし、作品の制作においては、常に日本を意識しながら、日本文化の内面性を追及している。三味線柏木流創設、家元。イベント・番組等プロデューサー等を経て、デジタルフォトスタジオ「ピックスドウ」設立。国際写真雑誌「ZOOM」で表紙を飾った、数少ない日本人カメラマンの一人でもある。現在、月刊、週刊誌の表紙、グラビア、政治から一般の方々までの撮影などで活躍中。写真集「わんざくれ」(日本出版社)、大宮ソニックシティオープニングプロデュース、等

日本舞踊家: 岩井梅我

幼少より祖母、五代目岩井紫若、母、四代目岩井梅我に師事する。祖母・紫若主催の「岩井紫若舞踊集成」、「岩井流かきつ会」に常時出演。日本舞踊協会(創作舞踊劇場・中央ブロック公演など)・報知新聞社(華扇会)・他流の方が主催する会など、古典・創作舞踊と様々なジャンルに挑戦中。花柳寿美師主催「曙会」、藤間仁章師主催「章会」、西崎緑師主催「信長 乱」、日本舞踊振興財団公演、等

鼓奏者: 西川啓光

オーケストラ・アジア・ジャパンアンサンブル日本音楽著作権協会。西川啓光和太鼓グループ「鼓友会」主宰。洗足学園音楽大学現代邦楽講師。パール楽器製造(株)「パール和太鼓」のアドバイザー。現代邦楽分野での演奏活動及び現代音楽のレコーディング及びコンサート、CM、テレビのプロデュース等を手掛ける。石川さゆりの「天城越え」『酔ってそうろう』や『浪花節だよ人生は』、CM「お正月を写そう～」等

3D監修: 河合隆史

早稲田大学 大学院国際情報通信研究科 助教授。博士(人間科学)。立体映像やバーチャルリアリティの制作・応用・評価に関する研究に従事。人間科学の視点から、ヒトに優しい先端メディアの発展・普及に取り組んでいる。著書に、「次世代メディアクリエイター入門1 立体映像表現(カットシステム)」「先端メディアと人間の科学(トランスアート)」ほか。なお、今回の3D処理を担当した阿部信明氏は、河合研究室の博士後期課程に在籍している。

総合プロデュース: 太田啓路

株式会社新産業文化創出研究所 メディアナレッジプロデューサー。早稲田大学国際情報通信研究科博士後期課程修了。映像メディアが生体に与える影響(立体映像観察中の眼精疲労、3D酔い等)について研究する傍ら、立体映像、バーチャルリアリティコンテンツの制作を手がける。

2007年1月17日

■作品について

歌舞伎演目：鏡獅子(かがみじし)

長唄の曲名。明治 26 年[1893]、歌舞伎座初演。本名題「春興鏡獅子(シュンキョウカガミジシ)」。福地桜痴(オウチ)作詞。三世杵屋(キネヤ)正治郎作曲。古曲「枕獅子」(寛保 2 年[1742]、初世瀬川菊之丞初演。遊女が手獅子をもって踊る)を改作した曲。変化に富んだ構成と、前ジテ(歌舞伎初期の所作事が女形(オヤマ)の芸であったころの名残り)と後ジテ(立役の男性的な獅子の所作)との対象が特色の曲。大正 4 年[1915]、六世菊五郎が復活上演したが、以来、舞踊曲としてとくに好まれている。

■アナグリフ3Dの原理

アナグリフ(Anaglyph)とは、本来「浮き彫りにされた」といった意味ですが、現在ではアナグリフ(赤青メガネ)方式の立体映像を意味する場合がほとんどです。私たちがモノを立体的に見ることができるのは、対象物を左右の目で見た時の見え方の違い(両眼視差)によるものです。そこで、立体映像を見るためには、右目には右目用の絵を、左目には左目用の絵だけを見せてあげる必要があります。アナグリフ方式では、補色関係にある 2 色のフィルタを通して見ることによって、左右の目にそれぞれ対応した絵のみを見せることができます。対応する箇所が交差したところに立体映像が見えますので、飛び出し感や、奥行き感があるように見えます。